

総合的な学習の時間「上海タイム」への取り組み — WE♡LOVE SHANGHAI —

前上海日本人学校虹橋校 教諭

千葉県木更津市立木更津第二中学校 教諭 日根昌紀

キーワード：総合的な学習の時間、課題解決型学習、プロジェクトベース学習

1. はじめに

上海市の人口は約2000万人。中華人民共和国最大の経済都市である。都市部では個性的な高層ビル・超高層ビルが建ち並び、高速道路、地下鉄が網の目のように張り巡らされている。日本ではまだ試験段階のリニアモーターカーが浦東空港と市内を営業運転している。人民服を着た人々が洪水のように自転車にのっている以前の中国のイメージは全くない。さらに上海は発展を続けている。ホテルやマンション、ビジネスビルが次々に建設されている。地下鉄もどんだんのびていく。街中が工事中といった様相だ。また、街のあちこちでは「海宝（ハイバオ）くん」の姿を見かける。2010年上海万博のマスコットキャラクターだ。上海は今世界で最も注目されている都市であることは間違いない。

上海には約4万8千人の日本人が長期滞在している。金融機関や商社、メーカー、サービス業などの日系企業約1万8千社の駐在員やその家族が大半である。2007年には当時首位だったニューヨークを追い抜き、世界最大になった。上海日本人学校も世界一の規模であり、虹橋校と浦東校の2校に分かれている。虹橋校の児童数は2010年3月現在、46学級、約1300名である。

上海日本人学校の教育目標は「自ら学び、明るく、やさしく、たくましく国際性豊かな児童の育成する」であり、中国で生活しているという貴重な体験を生かした教育活動を目指している。本校では総合的な学習の時間を「上海タイム」として、中国もしくは上海に関わる内容について学年ごとにテーマを決めて学習する時間としている。私の受け持つ6年生ではテーマを「WE♡LOVE SHANGHAI～中国・上海のよさを伝えよう～」とした。ここでは、その取り組みについて紹介させていただく。

2. 総合的な学習の時間「上海タイム」について

(1) 児童の実態

学校教育目標の「自ら学ぶ」という点から本校6年生の実態を見てみると、塾通いをしている児童が多く（約8割）、単元テストなどの与えられた問題を解くことは比較的得意である。また、日本の私立中学を受験する児童が多いのも特徴である（約3割）。一方、自分の考えを文章にしたり、発表することに関しては苦手意識を持つ児童が多い。学級では自主学習ノートで調べ学習を行っている子もいるが、インターネットで検索する程度である。

また、「国際性豊かな」という点から実態を見てみると、子ども達は海外（上海）という、国際性を身につけることに恵まれた環境で生活していながらも日本人のコミュニティーにどっぷりと浸かっており、上海で暮らす人々との関わりがとても少ない。各家庭には日本の衛星テレビが入っており、主な情報はそこから入手している。現地人との関わりが少ないため、時に中国や中国人に対する誤解や偏見を持ってしまうことがある。食品問題等をはじめ、中国に対するマイナスイメージも強くある。

(2) テーマについて

6年生のテーマを「WE♡LOVE SHANGHAI～中国・上海のよさを伝えよう～」とした。子ども達は遅かれ早か

れ日本に帰国し、中国の事を多くの人に聞かれることであろう。その時に「中国ってこんなに魅力的な国なんだよ」「上海にはこんなにすごいところがあるんだよ」と自信を持って伝えることができるようになることが願いである。

4年生では「現地スタッフにインタビューしよう」、5年生では「中国の『食』をしらべよう」をテーマに「上海タイム」を進めてきた。最終学年である今年は、学校を飛び出し、中国・上海の良さを取材・インタビューを通してさらに学習を深めていきたいと考えた。個人個人でテーマを考え、追求し、調べたことをプレゼンテーションする。

また、その下準備として1学期の北京への修学旅行をWE♡LOVE BEIJING～中国・北京のよさを伝えよう～と位置づけ、インターネットでの調べ学習、修学旅行中の現地人へのインタビュー、ガイドブック作り、5年生への発表を通して、情報の収集から情報の発信までのスキルを学ぶことにした。

(3) 学習の進め方について

今回のWE♡LOVE SHANGHAIについて、各自の課題の選択については、基本的に自由とした。課題に制限を設けないことで、子どものモチベーションが上がり、自分だけのレポート、発表ができると考えたからである。また、自分の選んだ課題には責任が生じる。しかし、子どもが課題を設定するとき、どうしても単なる興味で決めてしまったり、深まりの期待できないものになったりしてしまうことがある。そこで、次の4つの条件を満たすかを確認した。

- ①中国・上海の良さを伝えるものか
- ②自分の生活や将来に役立つことか
- ③インタビューや取材が可能か（中国に住んでいなければ得られない情報であるか）
- ④日本とのつながり、比較ができるものか

課題解決学習を進める上で大切なことは、ゴールを明確に意識させることである。そこで上海タイムではメインの活動として「プロジェクト計画書」の作成に取り組んだ。どのような状態になったらこのプロジェクトの完成といえるのか（例：上海の屋台の数や、売っているものの種類などについてアンケートをしたり、インタビューをしたりしながら詳しく調べて、中国の人々の生活や、そこでの苦労などを知り、学習発表会で多くの人に上海の屋台の良さについて伝えることができたなら完成など）、ゴールすることで得られるものは何か、ゴールにたどり着くにはどうしたらよいかを具体的に考えさせ、綿密な計画を立てさせた。また、ウェビングを用い、ゴールするために必要なこと、モノを徹底的に考えさせ、ゴールへ至る過程をイメージさせた。

実際のインタビュー・取材に関しては海外という環境の中、身近な人々の協力なくしてはできないものである。学級便りで子ども達が計画的に情報収集できるよう保護者に協力を呼びかけた。また、事前にインタビューの内容を考えさせ、中国語への翻訳、発音の仕方なども調べさせた。

(4) 個人テーマについて

中国茶（茶器、種類、効能等）	上海の過去・現在・未来（外灘・上海万博）
中国の食卓（おかし、ちまき、ぎょうざ等）	近代都市上海！！リニアモーターカー
三大中華料理～炒めて焼いて茹でて～	上海タクシーのルーツを探れ！
チャイナスイーツ（杏仁豆腐・マンゴープリン）	55の秘密に迫る！～中国の少数民族～
上海蟹を徹底解剖	中国的祝日（祝日、爆竹）
歴史ある建築物 in Shanghai（外灘・寺）	太極拳パワーで健康になろう
ビッグタワーズ in the world（東方明珠塔・森ビル）	工芸の神秘（骨董品、中国結、楽器）
上海の観光地	日中まるわかり～生活編・学校編
伝説の豫園	チャイナドレスの歴史
上海動物園ニュース	THE CHINESE STAR（中国の芸能） など

(5) 学習構想

	学 習 の 展 開	構 想	教科・行事との関連
1 学 期	<p>WE♡LOVE BEIJING ～中国・北京のよさを伝えよう～</p> <p>「中国・北京について調べよう」 ○修学旅行をきっかけとし、歴史的に、文化的に、経済的に関係の深い中国について課題を設定し、調べることができる。(新聞作り) 1. 世界遺産を調べよう。2. 北京の街について調べよう。3. 北京の歴史について調べよう。4. 北京オリンピックについて調べよう。</p> <p>「中国・北京の歴史と文化に触れよう」 ○修学旅行で実際に見学や取材を行い、中国・北京の歴史や文化に興味・関心を持つことができる。 1. 世界遺産を学ぼう(頤和園・万里の長城・天壇公園・故宫博物院)。 2. 胡同で生活する人々にインタビューしよう。</p> <p>「中国・北京のよさを伝えよう～ガイドブック作り～」 ○修学旅行を振り返り、中国・北京のすばらしさについてまとめ、発表することができる。 1. ガイドブックの作成をしよう。2. 五年生へ紹介・発表しよう。</p>	<p>情報を収集する</p> <p>↓</p> <p>体験する</p> <p>↓</p> <p>伝える</p>	<p>[情報] ネットを学ぼう(著作権、有害な情報について)</p> <p>[社会科] 身近な国・中国との歴史的なつながりを調べよう(遣唐使・元寇など)</p> <p>[社会科] 歴史新聞を作ろう ☆修学旅行</p> <p>[国語科] ガイドブックを作ろう(北京の魅力の紹介)</p>
2 学 期	<p>WE♡LOVE SHANGHAI ～中国・上海のよさを伝えよう～</p> <p>「中国・上海について調べよう」 ○自分たちの住む上海について関心を持ち、調べようとする意欲を高めることができる。 1. 中国・上海の良さについて話し合おう。2. 文化、歴史、衣食、自然、交通、建築、商業などに分類しよう。 ○自分のテーマを設定し、計画書を作成することができる。 1. テーマを考えよう。2. プロジェクト計画書を作成しよう。</p> <p>「中国・上海のよさについて取材しよう」 ○計画書をもとに取材・インタビューを行い、興味・関心を高め、上海の良さを実感することができる。 1. インタビューの内容を考えよう。2. 中国語に翻訳しよう。3. 取材しよう。4. インターネットで調べよう。</p> <p>「現地の学校と交流しよう」虹橋中学との交流 ○現地校との交流を通して、上海に住む同世代の子ども達の考えや生活を知り、親交を深め、上海についてより理解を深めることができる。 1. 自己紹介しよう。2. 上海について質問しよう。3. 日本の遊びを通して交流しよう。</p> <p>「中国・上海のよさを伝えよう①～発表準備をしよう～」 ○調べてわかったことや考えたことなどをまとめ、クラス内で発表し、学び合えることができる。 1. 調べたことをまとめよう。2. グループを作ろう。3. 発表方法を考えよう。4. 発表の準備をしよう。</p> <p>「中国・上海のよさを伝えよう②～中間発表会を開こう～」 ○学年内で発表し、様々な意見を聞き、自分たちの発表を高めることができる。 1. リハーサルを行おう。2. 中間発表会を開こう。</p> <p>「中国・上海のよさを伝えよう③～学習発表会を開こう～」 ○中間発表会で学んだことを生かして、保護者の前で発表し、上海の良さを自信をもって伝えることができる。 1. 中間発表会の反省をしよう。2. 招待状を作ろう。3. 学習発表会を開こう。 ○中国・上海のよさについて伝えることができたか。これまでの学習を振り返る。</p>	<p>情報を収集する</p> <p>↓</p> <p>計画を立てる</p> <p>↓</p> <p>体験する</p> <p>↓</p> <p>体験する</p> <p>↓</p> <p>学びの共有</p> <p>↓</p> <p>学びの共有</p> <p>↓</p> <p>伝える</p>	<p>[社会科] 身近な国・中国との歴史的なつながりを調べよう(日清戦争・日中戦争など)</p> <p>☆チャレンジタイム カンファ体験</p> <p>[中国語] インタビューの練習をしよう</p> <p>☆虹橋中学校との交流会</p> <p>[情報] プレゼンテーションソフトの使い方を学ぼう</p> <p>[国語科] 平和の砦を築く～情報を発信しよう～</p>

(6) 成果と課題

- ・プロジェクト計画書で具体的に目指すところをはっきりさせたことで、活動しやすかった。
- ・学校では限られた活動であったが、与えられた環境の中で子ども達なりに知恵を出して協力したり、工夫し合ったりしながら、仲間との協調性を育んでいったと思う。
- ・アンケート、インタビュー、現地調査などを取り入れたのでより深く中国・上海を知ることができた。
- ・クラス内、学年内、保護者と三度の発表の場を設けることによって、児童の自己表現力も高まった。
- ・5年生がクラス単位のテーマだったことに対し、個人テーマにしたことで自主性・主体性が育った。
- ・調べる活動が校外であることがほとんどのため、保護者の協力を頼るところが多くなってしまった。
- ・子ども達だけで外出することもあったようなので、安全管理の点について事前に保護者も含め徹底しなければならなかったと感じた。
- ・コンピュータで検索し、まとめただけの発表になりがちである。いかに自分たちの足で苦労して調べさせるか。その方策がポイントである。



プレゼンテーションと質疑応答



中国茶の実演をする児童

(7) 児童の作文

「WE LOVE SHINGHAI」を通して感じた事は、情報収集した事を自分でまとめて相手に伝えることの大変さだった。しかし本番では、それらを乗り越えた発表ができ、その後に感じた喜び、うれしさ、感動は大きなものだった。この学習を始める時、皆と重ならないテーマがおもしろみがあると考えていた。しかし、皆が全く知らない事だと、聞いていてもあきってしまう。そこで、簡単すぎず、難しすぎずという条件でテーマをしぼった。最終的に、自分の関心もあり、クラスの友達とも重ならない「上海万博」について調べる事に決めた。個人発表の日が近づいていくころに中西先生が大事な事を教えてくれた。「日本に住んでいる小学生でもできる総合学習では意味がない。本・インターネットだけから情報・資料を抜き取るだけじゃダメだ！ここ（中国・上海）にいるからこそできる情報収集をしてこそ上海タイムの発表だ。」とても大事な事だと思ったが、そのときは時間の余ゆうがなく個人発表には間に合わなかった。次のグループによる中間発表は、仲間との発表を接続する部分を考えるのに時間を費やしたので、内容をあまり変えられなかった。+ a のまとめもできていなかったので、発表時間がすごく短くなった。周りより早く終わってしまったので、はずかしかったし、くやしかった。いよいよ本発表。中間発表のくやしさをバネに内容も大幅に充実させた。現地の人たちにインタビューをし、グループで上海の未来を予想してまとめたら、発表時間もぐんと伸びた。本当に良い発表になったと思う。自分でまとめる上海タイム。上海でしか存在しない科目。日本ではできない事をして上海・中国の良さを知る時間。そしてそれを自分なりの言葉でまとめる。それだけ努力してできた発表こそが、上海タイムにふさわしい発表となると思った。

3. おわりに

上海で課題解決型の学習を行うことは、安全上の問題、言葉の問題などの制約があり、充実した内容にするためには苦労が多かった。しかし、現地の人々と交流してはじめて見えてきたものがあると思う。子どもたちが自信を持って堂々とプレゼンテーションをする姿に頼もしさを感じた。近い将来、子どもたちが日本と中国の虹の架け橋となり、両国の友好・発展のために活躍してくれることを願っている。